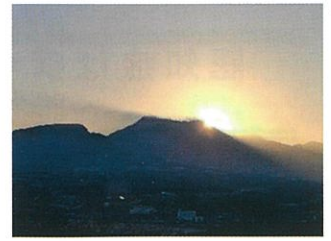


第73号

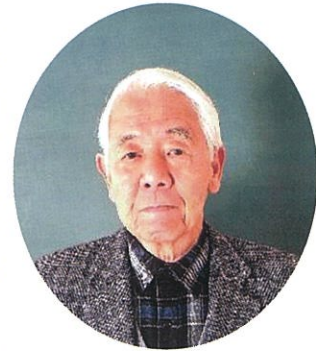
令和7年1月15日発行
森山地区社会福祉協議会
諫早市森山町本村1300
TEL. 0957-36-0889

地区社協だより もりやま



五穀さんから雲仙岳の初日の出

新年のご挨拶



森山地区社会福祉協議会
会長 山口 公德

新年明けましておめでとーございませう

「安^{やす}くして危^{あや}うきを忘れず」

平和のときも危急の場合を予想して油断しないという意だそうです。

去年は新年早々能登半島で大地震が発生、想定外の被害が起こり未だに被害のつめあとが残っています。日々の生活のなかで予想だにせぬ出来事への構えづくり、想定力が問われる今日です。

皆様方にとりまして益々の活躍の年になりますよう祈念申し上げ年頭の挨拶いたします。

山崎賢人選手（唐比出身 32歳）、世界自転車選手権男子ケイリンで世界王者に ～2024年10月、世界選手権（デンマーク）で日本に37年ぶりの金メダル～

森山出身の青年が快挙達成。山崎賢人選手は、唐比出身で森山中、長崎日大高、日本大学ではバレーボール部で活躍。大学4年生のとき自転車競技に進むことを決意して、2019年（令和元年）からはナショナルチームで世界の強豪と国際舞台で戦ってきた。2024年2月の自転車アジア選手権（インド）で金メダル、パリ五輪出場は逃がしたものの10月の世界選手権男子ケイリン（デンマーク）で金メダルを獲得した。

唐比在住で父親の山崎一行さんに、賢人選手の経歴や人柄を聞くことができた。「森山東小学校では、走ることで敵なし。森山中学校では、バレーボール部に入り恩師の伊藤先生の指導で諫早市中体連で優勝。長崎日大高校ではエースとして、日大でもバレーボールで活躍し



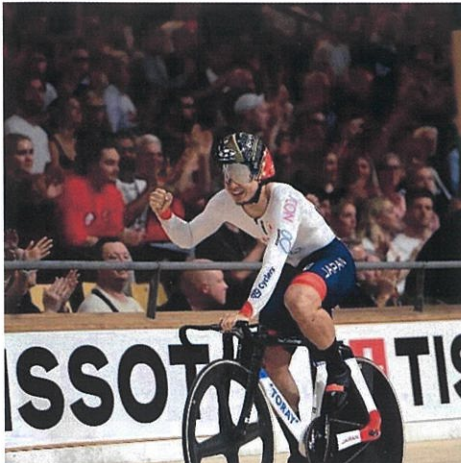
胸には JAPAN, 日の丸を背に優勝の笑顔

ていた」

「3人の子どもがいるが、賢人は幼いころから運動能力は飛び抜けていたが、そんなに目立つタイプではなかった」

世界王者になったときは、「本人から直接の連絡はなくテレビで知った。いつもポーカーフェイスの息子が、ガッツポーズを見せたのは初めて」と笑って語ってくれました。これからの希望は、「競輪G1（グレードレースの最高峰）で優勝して欲しい」と話されました。

山崎選手のこれからの活躍を期待します。森山の子どもたちに、小さい町から努力して世界王者になった先輩がいることをぜひ知っていただきたいものです。



ウイングランをする山崎選手（写真提供は、山崎一行さん）

認知症は病名ではない。生活障害の状態を表す言葉だ ～誰もがなりうる認知症をテーマ 地域福祉セミナーを開催～

森山地区社会福祉協議会は11月15日、森山公民館で地域福祉セミナーを開催しました。テーマは「誰もがなりうる認知症について」として、約80人の参加者がありました。

講師の宮田史朗先生は、諫早市の認知症専門嘱託医として活躍されており、相談活動や認知症の負のイメージを変えることに取り組まれています。特に「認知症は、病名ではなく状態を表す言葉、生活障害だ」と判りやすく話され、また、認知症の症状には中核症状であるもの忘れ（記憶障害）、時間や場所がわからない見当識障害と妄想・徘徊などの行動心理症状（BPSD）があること、認知



症の方には

配慮ある接し

他人事ではないと熱心に聞く参加者の皆さん

方が必要であると述べ、なによりも早期に専門機関を受診することが大切であると強調されました。

【講師】

医療法人見松会 あきやま病院

精神科部長 宮田史朗氏

精神保健福祉士 真崎有佳氏

作業療法士 早坂昇平氏

宮田史朗医師

また、同病院精神保健福祉士の真崎有佳氏は、認知症の方と家族を支えるサポート、さらに作業療法士の早坂昇平氏は、認知症予防について解説されました。受講者からは次のような感想が寄せられました。

- 私もいつなるか心配だったので、お話が聞いて良かったです。(70代女性)
- 認知症の人に不安をもたせないようにすることが大切だと良く判りました。(60代男性)
- 初めて認知症の詳細を知ることができました。とても分かりやすかったです。(60代女性)
- これからもこのような講話等を開催して欲しい。(70代男性)

親子で楽しく森山を歩こう！

～初冬の1日、ふれあいウォークで唐比の地形と歴史を足で学びました～

森山地域青少年健全育成会、森山町子ども会育成連合会主催の「ふれあいウォーク」が12月8日（日）に開催され、約30人の家族が参加されました。唐比ネイチャーセンターに集合して、唐比ふれあい牧場、れんこん田、池の御前、ハス公園、唐比海浜公園のコースを歩きました。れんこん田では揺れる大地に歓声をあげ、虎御前・池の御前の伝説、水晶観音や汽船道（旧温泉鉄道）の話に耳を傾けていました。ポイントごとに出されるクイズでは友達同士や親子で話し合いながら楽しいひとときを過ごしました。



唐比湿地公園で揺れる大地を実感する子どもたち

温かいお正月をお迎えください

～ひとり暮らし高齢者の皆さんへ森山の餅を届けました～

年末恒例のもち配付は、今回で18回目。年の瀬の12月15日、慶師野公民館に集まったのは、自治会長・民生児童委員・福祉協力員・地区社協役員の総勢34名。前日から準備した約100キロの餅米を蒸してつくのは男性陣。熱いつきたての餅をちぎってまるめるのは女性陣。そして、冷や



にぎやかな餅つき

餅つき・餅配付は、森山の地域福祉に携わる関係者が一同に会して作業しており、にぎやかな会話が弾み、スタッフ同士のふれあいの場ともなっています。お届けからは、「今年もつきたてのお餅をありがとう」「楽しみに待っていました」などの嬉しい言葉をいただきました。2025年が皆様にとって良き年となりますように。

してパック詰めと地区別の配付準備は、男女共同グループで仕上げと流れるように作業を進めました。つきたての餅は、民生委員の方が一人ひとりに声掛けをしながら対象者150人の皆さんへメッセージを添えて届けました。



餅配付の準備

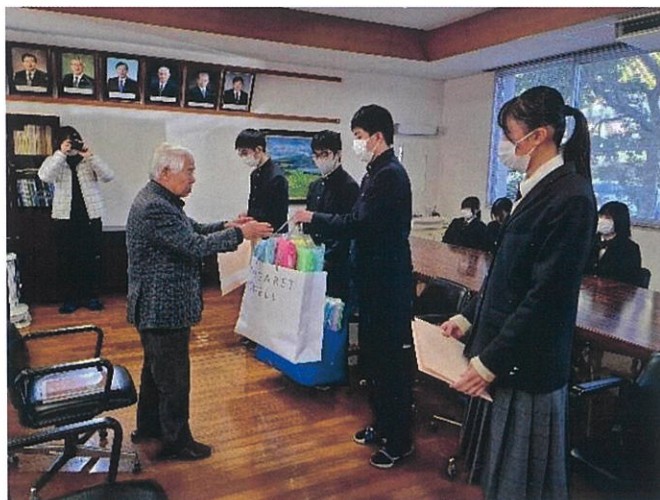
諫早東高校生徒さんから今年も森山の高齢者へ贈り物

～みんなで作った防災頭巾・クッションなどをいただきました～

県立諫早東高校（伊崎健一郎校長）の生徒さんから、毎年、12月に森山の高齢者へさまざまな贈り物をいただいています。今回は、クッションを兼ねた防災頭巾。同校は、文部科学省の学校安全総合支援事業のモデル地域拠点校に指定されており防災啓発活動に取り組んでいます。また、諫早警察署と連携したニセ電話詐欺防止のチラシを作成するなど防犯活動にも積極的です。

12月12日に同校で贈呈式があり、1年生・2年生の代表から山口公德森山地区社協会長に贈られました。生徒代表は、「私たちが心をこめて作りました。お役にたててください」と挨拶。山口会長は、「年末に高齢者へお餅の配付を行います。その時にみなさんの温かい気持ちを届けます」とお礼を述べました。

防災グッズには、生徒ひとり一人のメッセージカードが添えられています。同校の長年にわたる福祉活動を町内の皆さんもご理解ください。



諫早東高校での贈呈式

《贈り物に添付されているメッセージから》

「防災ずきんだけではなく枕やクッションとしてぜひお使いください」

残しておきたい 森山のあの日あの頃
 ～昭和24年から26年頃、田尻青年団芸能大会～

この写真は、昭和24年から26年頃だと思います。田尻青年団が竹内秀雄宅（竹内徳次さんの父親）の庭に馬車を並べて舞台を作り芸能大会を行いました。多くの方が庭いっぱいに見物に来られています。娯楽のない時代のこと、青年団の芸能大会は大変喜ばれました。

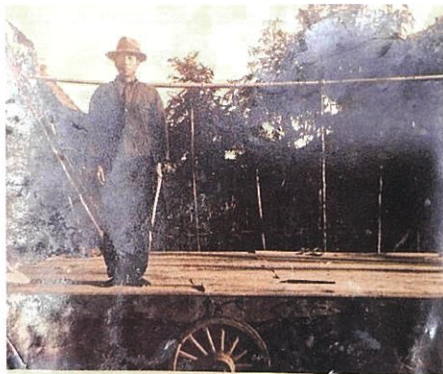
終戦後、食糧がなく長崎から森山へ米・麦を買うために来た女性が頼る所もなく途方にくれて歩き回っているときに母に出会い、米麦・野菜を分けてやったことがありました。その家族とは、いつの間にか親せき付き合いをするようになり田植え時期に手伝いに来られたり、長崎のお宅へ行ったこともありました。そんな時代でした。（田尻 竹内徳次・民子さん談）



舞台上で演じるのは、青年団の皆さん



会場を埋めた多くの地域の皆さん



馬車の舞台づくりをする竹内秀雄さん

竹内さんご夫婦は、アルバムの整理をされていて廃棄するには忍びないと写真を提供してくださいました。セピア色の写真には、昭和20年代の農村の様子がうかがえます。写真に写っている皆さんは、懸命に農作業に励み村の復興に尽くされた方々でしょう。

また、青年団は昭和30年代には映画上映会も開催して、鑑賞料を青年団活動費に充てていたそうです。村の中核を担う青年たちが文化活動にも取り組んでいたことがわかる貴重な記録です。

「寄付ありがとうございました」

左記の方からご厚意による寄付金をいただきました。

寄付金は、自治会福祉活動助成等、森山地域の福祉事業に大切にに使わせていただきます。

令和6年10月1日～12月27日受付

《香典返し》

◎上井牟田 田代 彰 様

【亡父 昇 様】

◎下井牟田 土井 京子様

【亡夫 錦 様】

お知らせ

左記行事は、1月に開催を予定していましたが、町内行事の関係で中止しました。

◎第2回ふれあいモルック大会

表紙画像

令和7年元旦。田尻 五穀岳山頂から臨む雲仙岳の初日の出。元旦の朝、五穀豊穰を願って自治会役員や五穀連、町内の方々が山頂から初日の出を拝みました。